



AIYES 通信

横浜スペイン交流協会会報

1998年 7 月 1 日発行 第16号 発行・横浜スペイン交流協会事務局

～～～ 1998年度の事業に寄せて ～～～

横浜スペイン交流協会 会長 下山 貞 明

1998年度定時総会も終り、新しい年度の各事業に取り組むことになり本年もよろしく御協力をお願い申し上げます。

1997年度の事業につきましては、スペイン語教室、スペインサロン、写真展、第三回スペイン「さくら植樹」友好親善訪問団の派遣など超スケジュールの多彩な事業を展開してまいりました。

特に、さきに植樹した桜がロング市、セビリア市の公園に咲きはじめ、ロング市においては将来メイン大通りに桜並木を計画しており、スペインとの文化交流の拠点ができましたことは、会員皆様をはじめ各関係機関の深い御理解と多大な御協力によるもので、心から厚く御礼を申し上げます。

本年度の新たな事業として、創立10周年を迎えるにあたり記念事業の準備計画、9月にロング市において故春田美樹画伯（協会とロング市との交流の功労者）の追悼式典、並びにペドロ・ロメロ祭りに代表団の派遣、更に今後のスペインとの文化交流のあり方について、みんなで考え楽しい協会として充実した事業を推進して参りたいと思っております。

*** 1998年度定時総会開催 ***

横浜スペイン交流協会1998年度総会は5月30日(土)、かながわ労働プラザ内レストラン“ガル”において、定刻午後6時30分から会員35名が出席し、朝倉事務局長の司会で始まった。

まず下山会長から第3回スペインさくら植樹とヨコハマデーの報告があり、続いて規約第10条の2項により下山会長が議長となり議事に入った。

まず最初に飯塚常務理事より1997年度の事業報告がなされた。つづいて中村常務理事より同年の決算報告、竹田監査役より同年会計監査の報告があった。

98年度活動方針の発表に先立ち、任期満了に伴う役員改選が行われ、相澤百合子理事、寺原瑛子理事、伴野芳信理事、三崎輝夫理事の新任と留任役員を合わせてすべての役員が承認された。また同時に顧問として元駐西日本大使坂本重太郎氏の委嘱も承認された。



▲1998年度定時総会風景。すべての議事が順調にすすんだ。

その後98年度の活動計画、新年度予算が提出され満場一致拍手で全議案が承認された。97年度の第三回スペインさくら植樹に際し多額のご寄付をいただいた、会員三崎輝夫氏夫妻と、賛助会員JTB団体旅行横浜支店に感謝状の贈呈があった。また神奈川県押花倶楽部・事務局代表丸山雅香子氏に、スペイン訪問団の記念品として多数の押し花の額と、セビリアとロンダにおけるヨコハマデーにたくさんの押し花の材料を頂戴したことで感謝状の贈呈があった。

午後7時から夕食懇親会を開催。懇親会は終始和気あいあいのうちに進み、協会のさらなる発展を祈念し、午後8時30分終了した。



▲総会後の懇談会。参加者全員がなごやかに、楽しいひとときを過ごした。

❀❀ スペインさくら便り ❀❀ ❀❀ 花咲いたロンダのさくら ❀❀

ロンダ市には1993年3月に植樹した200本の生き残り（詳細はA I Y E S通信15号参照）と、本年2月にさくらんぼの台木に接ぎ木した50本のさくらがある。

今回4月13日付けで、1993年の植樹祭に春田画伯から招きを受けて参加したというマラガ在住の八倉巻等（やぐらまきひとし）という方からうれしい便りが届いた。つぎに、その一部を紹介しよう。



▲花開いたロンダのさくら

「（前略）～さて、本日おたよりをしましたのは、同封のスナップ写真のとおり93年の植樹の桜が枝振りは小さいですが見事に咲きました。3月30日に同僚を案内してロンダを訪れた時のスナップです。現在あの公園には6本だけ植えた桜が生きておりますが、花の咲いたのはこの一番大きな写真の桜です。何か私事のように嬉しくシャッターを切りました。夏の間、雨がありませんので日本より育ちが悪いような気がいたします。それでも皆さんの植えた桜がこうして育っていく事は、私の胸の奥に春田さんを偲ぶと共に、横浜スペイン交流協会の皆様を思い出します。～（以下略）」

❀❀ セビリアでもさくらが咲きました ❀❀

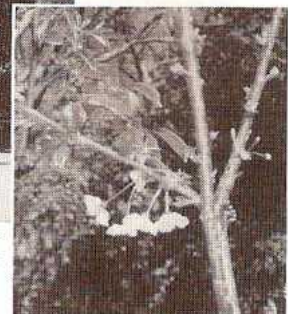
本年2月の「さくら植樹」および「ヨコハマデー」開催に、現地スペインでコーディネートをして下さった太田清壽氏からセビリアのマリア・ルイサ公園でさくらの花が咲いたとのお便りをいただきました。

3月16日のこと、太田さんがたまたまマリア・ルイサ公園を通りかかると、さくらの木にいくつかの花が見えたということです。太田さんは近寄って確認をした後、花に「明日まで散るなよ」と声をかけ、翌日カメラを持って奥さん共々再度訪れ、写真を撮ったとのことでした。

この花を咲かせてくれたさくらは、1995年11月にさくらんぼの台木に、今は亡き王子さんがザビエル城に植えたさくらの枝をいただいて芽接ぎし、植樹したものです。（王子さんのことは、A I Y E S通信第14号と15号「ザビエル・パンブローナそして王子尚三氏とさくらと山口公園」を参照してください。）



▲太田さんと、マリア・ルイサ公園のさくら ▶



ースペイン・ミニミニ情報ー

◎新任の駐西日本大使決まる

横浜スペイン交流協会の「さくら交流」事業に大きな関心を寄せられ、その実現に向けて助力してくださった坂本重太郎氏が、本年3月いっぱい駐西日本大使のお役目を終わられ、帰国されました。

後任には、やはり本年3月まで、駐アルゼンチン日本大使としてご活躍されていた荒船清彦氏が5月中旬より着任されました。

◎スペインの電話番号システムが変わりました

本年4月より、スペインの電話番号システムが変わりましたので、お知らせしておきます。

今後スペインへ電話をかけたり、スペインで電話をしたりするときは注意して下さい。

(1) スペイン国内で電話をかける場合

市内通話でも、市外局番からダイヤルするようになりました。

例えば、マドリードの場合市内から市内へかける場合でも、マドリードの市外局番の「91」を最初にダイヤルします。

(2) 日本からスペインに電話をかける場合

スペイン国内のシステム変更にとともに、国際電話のかけかたも次のように変更になりました。

例えば従来マドリードの「91」123-4567にかける場合

001-34-1-123-4567であったものが、

001-34-91-123-4567となりました。

◎マドリード観光スポットの入場制限制度始まる

マドリードの王宮、アラソス王宮、エル・パルド宮殿、デスカルサス・レアレス修道院、それにエンカルナシオン修道院の5箇所では、観光客の増加によって所蔵の美術品の痛みが懸念され入場者を制限することになりました。入場ができるかどうかについては、事前に下記まで電話でお問い合わせ下さい。

問い合わせ電話番号

91-547-5356-9

◎アベ（AVE）の新料金と時刻表

資料提供：太陽海外航空（株）

マドリードとセビリアを結ぶスペインの新幹線アベ（AVE）の新しい料金と、時刻表が発表されました。最新の情報ですので、今夏、あるいは今秋スペインへ旅行する方はご注意下さい。

新料金（ペセタ）

クラス	ツーリスト		プレフェレンテ		クルブ	
	バジェ	ジャノ	バジェ	ジャノ	バジェ	ジャノ
マドリード～セビリア	8,100	9,500	11,700	13,800	14,100	16,600
マドリード～コルドバ	5,900	7,000	8,600	10,100	10,400	12,200
コルドバ～セビリア	2,300	2,700	3,300	3,900	4,000	4,800

時刻表

	ジャノ	ジャノ	ジャノ	ジャノ	バジェ	ジャノ	バジェ	ジャノ	ジャノ
マドリード発	07:00	07:30	08:00	09:00	10:00	11:00	12:00	14:00	15:00
コルドバ発	08:41	09:18	—	10:48	11:41	12:41	13:41	15:41	16:41
セビリア着	09:25	10:00	10:15	11:30	12:25	13:25	14:25	16:25	17:25

	ジャノ	ジャノ	ジャノ	ジャノ	ジャノ	ジャノ	バジェ	ジャノ	
マドリード発	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	
コルドバ発	17:48	18:41	19:41	20:41	21:48	22:41	23:41	00:41	
セビリア着	18:30	19:25	20:25	21:25	22:30	23:25	00:25	01:25	

	ジャノ	ジャノ	ジャノ	ジャノ	バジェ	ジャノ	バジェ	ジャノ	ジャノ
セビリア発	06:30	07:00	08:00	09:00	10:00	11:00	12:00	14:00	15:00
コルドバ発	07:13	07:43	—	09:43	10:43	11:43	12:43	14:43	15:43
マドリード着	08:55	09:30	10:15	11:30	12:25	13:25	14:25	16:25	17:25

	ジャノ	ジャノ	ジャノ	ジャノ	ジャノ	ジャノ	バジェ	ジャノ	
セビリア発	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	
コルドバ発	16:43	17:43	18:43	19:43	20:43	21:43	22:43	23:43	
マドリード着	18:30	19:25	20:25	21:25	22:30	23:25	00:25	01:25	

割引料金の適用

- 1) 往復乗車券購入の場合 20%
- 2) 日帰り往復乗車券購入の場合 25%
- 3) 4歳から11歳までの子供は40%
- 4) 10名から25名までのグループは15%

ーロンダのお祭りーペドロ・ロメロ祭とゴジェスカ

本年2月、当協会「さくら植樹訪問団」一行が、ロンダ市から感謝パーティの席上で正式に招待をされたペドロ・ロメロ祭とゴジェスカについて、ロンダ市在住の日本人和田桃子さんにその起源を調査していただいたその報告書が届きました。

報告書は2回にわたり、それも長文なので、ここにその抜粋(一部編集部で報告文を書き改めています)を掲載します。

昔は、闘牛といえば、なにかハレの席に貴族によって、広場で馬にのって行われる騎馬闘牛であった。それが、18世紀のはじめのある日、ロンダの王立乗馬学校の馬場で、騎馬闘牛をやっていた貴族が転び、馬の下敷きとなり、牛に狙われた間一髪というところ、下働きの青年がパッと飛び出し、緑の広いコルドバ帽をはためかし、牛の注意を引き、貴族の命を救った。これで評判をよんだ青年は、調子にのって、帽子を赤い布切れに変え、棒をつけムレタを生み出し、革命的な徒歩闘牛をはじめた。

この人が、現在ある形の闘牛すなわち、近代闘牛を生み出したといわれるフランシスコ・ロメロである。彼は独自の闘牛方法を確立し、貧乏青年から大金持になった。

ところで、このフランシスコの子ファンは、正闘牛士(マタドール)ピカドール(槍突き)バンデリジェーロ(鉋突き)、補佐などチームを組んで行う闘牛術を確立した。

そしてこのファンの子、すなわちフランシスコの孫がペドロ・ロメロである。彼は1755年ロンダに生まれ30年間で6,000頭もの牛を殺し、一度も失敗したことがないという、スペイン闘牛界における永遠の大スターである。祖父が起こし、父が発展させた近代闘牛の技を完成させたのもまた、このロメロであり、彼は、ロンダ闘牛士学校の創立者でもある。

ところで、このロメロの活躍した18世紀後半は、闘牛の黄金時代であり、画家ゴヤの活躍した時代でもある。ゴヤはその頃の闘牛をたくさん描いている。このゴヤの描いた18世紀の闘牛と、ロンダが生んだ世紀の大スターペドロ・ロメロ生誕200年を記念して、1954年にはじめてゴヤ風闘牛「ゴジェスカ」が開かれた。

毎年ロンダのフェリアにこの「ゴジェスカ(ゴヤ風闘牛)」が開かれるが、これを見に行く人々もまた、画家ゴヤの絵画の中にあるような衣装で出かけ、この時ロンダの町は18世紀にタイムスリップしたかのような雰囲気に包まれる。



私のロルカへのかかわり

川口 三郎



ロルカについて筆をとりながら率直に申し上げ、何とも内心恆惓たるものがある。

今まで技術屋として狭い世界を楽しみつつ人生を送り、詩には全くご縁の無かった私が、70歳を過ぎて急にロルカに興味を持ち始めたことは、私自身奇妙な気がするし、かつ面白くもある。ロルカについてのご専門の方、詳しい方が多くいらっしゃるがこの駄文を草することを、お許し頂ければ幸いである。

私はロルカの名前だけはかなり前から知っていた。何時、何処で知ったかは覚えていない。ただ、覚え易い名前であること、若くしてファシストにより銃殺されたこと、内容が難解で私には全くご縁が無さそうであるということ位しか知っていなかった。

1993年春に2ヶ月、北部スペインに存る工場の技術アドバイスのため滞在した。会社が用意してくれたホテルを断り、家内とともにアパート暮らしをした。スペイン語を喋れない私たちを彼等は暖かく迎え入れてくれ、毎日の生活を実に楽しく過ごした。

あるお宅に招かれた時、高校生が私達にロルカについて情熱的に話してくれた。スペインの人達がロルカを如何に愛し、誇りにしているかをまざまざと知ることができた。これがロルカとスペイン人のかかわりを知った最初と言える。当時、お互いに英語で話していたが、もしスペイン語だったらどんなに良かったろうと思う。彼はその後サントンデール大学で理論物理学を学び、今は卒業していよう。彼に感謝しなくてはならない。

戸塚のスペイン語教室の高柳先生より、小海先生の「ロルカの詩を楽しむ会」に参加しないかとのお勧めがあり、申し込みをして頂いた。

偶々、金沢図書館に行ったところ、書架に小海先生の「ロルカ詩集」を発見。初めて彼の詩集を読む。

最初に「聖サンティアゴ（素朴なバラード）」を読んだ。この詩の素朴な暖かさにすっかり感銘をうけた。白馬に乗った聖使徒ヤコブの伝説を実に楽しく歌いあげている。既述のスペイン滞在の場所がサンティアゴの巡礼道に近く、時折訪ねた故か、この伝説が懐かしい。A I Y E S 通信の笠島さんの巡礼道のレポートは実に興味深く読ませて頂いた。

小海先生の「ロルカの詩を楽しむ会」に出席し、まさに目が開かれる感があった。それまで知らないことを色々教えられた。

その後、体調をくずし暫くベット生活を余儀なくする破目となり、彼の詩をゆっくり読んだ。小海先生の名訳を繰り返し読んでいううちに、取っ付き難かった彼の詩が次第に身近になってきた。特に「ジプシー歌集」を感銘深く読んだ。誇り高きジプシーへのロルカの共感、死に対する彼の感受性、彼の宗教観、素朴さ、——まさにスペイン的であると共に、私どもの心の底にもひそむものでもある。ロルカの詩は、朗読を通し、あるいは歌との共存でその素晴らしさが発揮されるということである。残念ながら今の私の語学力では、切角朗読を聴いてもチンプンカンプンであろう。しかし一度は聴いてみたいとの憧れのようなものがある。

そんな折、横浜スペイン交流協会メンバーの松本さんのご好意により彼の詩に曲をつけた録音を4月に聴く機会が与えられた。歌と言うより語りである。実に素晴らしかった。アンダルシア的曲のものもあれば、そうでないものもある。

驚いたのは、ロルカの詩がスペイン語ばかりでなく、英、仏、伊、独、ギリシャ、ヘブライ語で美しく歌われていることである。彼の詩の世界性を示すものと言えよう。

余りにも素晴らしいので、スペイン語高柳教室の皆さんと一緒にその一部を聴いた。教室の皆さんのなかに既にロルカに強い興味をお持ちの方もおられるし、これから読んでみようかとおっしゃる方もおられた。

かかる機会を与えて下さった松本さんにあらためてお礼を申し上げたいと思う。ロルカに関し全く無知な私が、70歳を過ぎて急に彼の詩に興味深く読み始めた経緯を振り返って見ると、多くの方のご好意による

ことを有難く思う次第である。

今年は、ロルカ生誕100年。世界の多くの人々が色々な企画を立てて彼を偲び、彼の詩や演劇を楽しんでいることを思うと嬉しくなる。

会員投稿

パラドール・デ・ハエンの印象

大竹 智栄子

見上げると丘の上に小さな十字架がある。その丘を目指してバスは坂道を登って行く。十字架は視界から消えてアーチ状の小さな門が見えてきた。バスはぎりぎり一杯でそれをすり抜けた。心の中で「さすが、プロ！」と運転手に拍手。そこはもう丘のてっぺん。ハエンのパラドールのあるサンタ・カタリナ城。



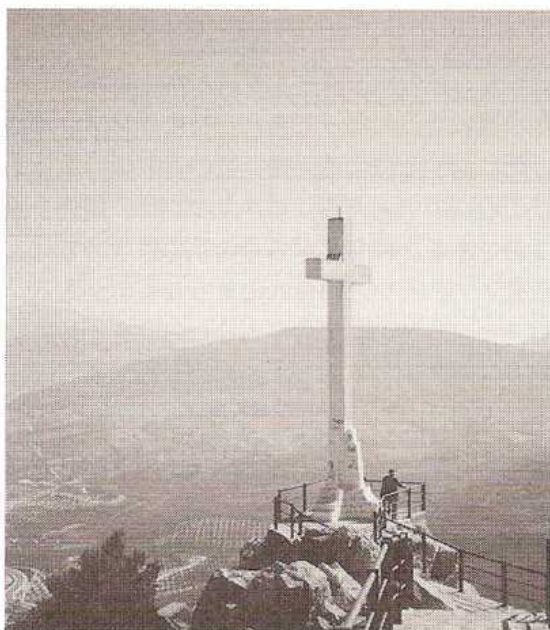
建物に入るよりも早く私は城脇の道を進み麓から見上げた十字架へと向った。馬の背のような丘の先端にある十字架は予想外にとっても大きくて青空に浮かんでいるように見えた。眼下にはハエンの町が広がり、たくさんの家々の屋根の間に、カテドラルや広場、闘牛場などが手にとるように見え、その町を取り囲むように、見渡す限りに見えるオリーブ畑が圧巻！スペインではバスやAVEのまどからなども見渡す限りのオリーブ畑を見ることができるけれども、この丘の上からの眺めは、遥か向こうの山まで延々と続いている。赤土に広がるオリーブ畑は、煉瓦色にオリーブの木の緑色の水玉模様を描き、大きな水玉、小さな水玉が整然と並んでいる。スペイン人は几帳面なのかなとオリーブ畑を見るたび思う。空中散歩の踵を返し、パラドールへと一步踏み込むと真っ暗闇、まるでメスキータにでも入った時のよう。

目が慣れてくると入り口近くの壁にcastillo de santacatalinaのタイトルのアズレホ(Azulejo…釉をかけたタイル)が掛けられていて、El Santoと呼ばれたFERNANDO IIIと赤ら顔のムハモンドIの1246年11月25日の出来事が書かれてある。でもその時は、その先を読む時間が無かったので、(本当は辞書を不携帯のため理解不能)とりあえずカメラに収め、旅の宿題とした。アルマグロやチンチョンのような修道院跡のパラドールのやわらかな雰囲気とはずいぶん異なり、いかにも要塞跡らしい、仏頂面の長い廊下を過ぎると、大

きなサロンに出た。20メートルもあると言う高い天井、古いタピストリー、ひんやりとした感じに包まれながらも、小窓から差し込む強い日差しが壁にくっきり格子模様のアクセントを写していた。

サロンの奥にCondestableのタイルが掛かったComedorの入り口があり、席へと案内された。食堂の中は天井からペンダントにアレンジできそうな飾りがぶら下がり、いっそう奥行きを感じさせ、独特の雰囲気を創り出している。ここでも食事は時間・料理・ワインもたっぷりとスペイン流で、ゆったりとしたひとときを過ごすことができ、すっかり満悦しながらもシエスタを希望するまぶたを振り切って外へ出た。夕日はどんなにお城を染めるのだろうか…。朝日はオリーブ畑のはるかかなたから昇るのかしら…。

残念だけど今夜のお宿は別の町、朝な夕なのオリーブ畑を又きっと眺めにこよう！心に誓いながら坂を下るバスへと乗り込みハエンを後にした。



▲サンタ・カタリナ城近くにある巨大な十字架

戸塚教室からの報告

アマポーラ受講生 赤堀 嶺男

高柳先生ご指導の戸塚教室はヒラソルとアマポーラの2クラスありますが、使用している文法の教科書にPAELLA（パエリャ）とTORTILLA DE PATATAS（じゃがいもオムレツ）の作り方が出ていたのを機会にスペイン料理を作ろうということになりました。食い物の話になるとまとまりが早く、近くの「女性フォーラム」で2クラス別々に料理に挑戦しました。パエリャ、じゃがいもオムレツのほか、にんにくスープ、レタスのサラダなど、男性もエプロンをかけ大騒ぎのうちに出来上がりました。高柳先生のオムレツはプロ並。パエリャは鍋により微妙に味の違いがありましたが、皆でおいしくいただき、スペイン文化の一端にふれたつもりです。



なお、アマポーラでは授業の始まる前の短時間、受講生の山崎氏による手品の実演と指導、ブリッジ講習会などをしています。それで頭の中もリフレッシュ、授業もはかどるというものです。4月からの新学期は全員継続することになりました。



▲でき上がった料理を前に全員ご満悦



味は食べてのお楽しみ。ズラリ並んだスペイン料理▶

島津豪亮会員個展

スペインの詩情を描き続けている当協会会員の画家、島津さんの個展が下記のように開かれますので、御案内します。

今回の個展もスペイン大使館が後援しており、サンチャゴ・サラス大使よりメッセージが寄せられています。

日時：1998年7月3日（金）～7月9日（木）（最終日：17時閉場）

場所：東急百貨店日本橋店・6階美術画廊

スペイン語講座 6月より1コース増設

昨年春、3コースを新設し、スペイン語のクラスは6教室となっていました。入門クラスの希望者が多かったこと、スペイン語教室を通して当協会の支援者を増やしたい等の理由で、入門クラスBを6月4日に22名の受講生で開講しました。場所は、かながわ県民活動サポートセンター、講師はNHK文化センター他で活躍中の角田ジョランダさん。

これで、1998年度の教室は、6月現在で、戸塚の高柳教室が2クラス31名、産貿センターの栗山教室が2クラス30名、かながわサポートセンターのジョランダ教室が3クラス49名で計110名の受講生が学んでいます。文法終了程度が3クラス、入門コースが2クラス、会話初級が1クラス、スペイン語の新聞・雑誌を読む会が1クラスとなっています。新聞・雑誌を読む会と新設クラスを除いては、若干の空席がありますので、受講希望の方は、下記にお問い合わせください。

なお、各教室は空席があればいつでも受講できます。見学はいつでも歓迎します。

問合せ先 講座委員会 チーフ 中村瑛子
 サブ 松本益代

※※※※ 新しい本の情報 ※※※※※

この1冊さえあればスペイン旅行はもう安心！

協会会員による 海外旅行「スペイン語ハンドブック」の出版

この4月、当協会のスペイン語講座講師、栗山由美子さんと常務理事の飯塚劭さんの執筆による大変便利な本が出版されました。まず旅行に便利なポケットに入れられるサイズ。見やすい大きな活字。初めての人にも簡単に言える、簡単に通じる、会話表現。場面、目的別にすぐに引ける項目。発音もフリガナ、アクセント付き。いざという時、通じなければ、ただ該当場所を指で示せばオーケー。イラスト付きで情報いっぱいの楽しい中身。これからスペイン旅行に行く人にプレゼントしても、とても喜ばれること請け合い。

池田書店発行。定価 950円＋税。各有名書店で発売中。

事務局より会費納入のお願い

3月末日にお届けしてある払込取扱票で、1998年度の会費納入をお願いしております。

ご存じの通り、当協会の運営は、会員の皆様が納入して下さる会費で賄われています。お届けしている会報の制作費、郵送費などすべて皆様からの会費が源資となっています。よろしくご理解下さいまして、7月31日までに最寄りの郵便局より会費を納入くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、払込取扱票を紛失された方は、下記までご請求ください。

◎払込取扱票請求先；

朝倉 部（事務局長）

編集後記

総会も無事終了し新しい年度が名実ともにスタートしました。

97年度と比べ本年度はより「実」に近い形での文化交流が予定されています。

スペインからのさくらの便りに合わせて協会の活動も「実」をつけていきたいものです。